

2024年12月15日 アドベント第3主日礼拝 聖書 ヨハネ1章1節-5節 説教「闇に輝く光」

今日と来週そしてクリスマスイブ礼拝の3回に渡り、ヨハネの福音書1:1-18からクリスマスメッセージを取り次ぎます。今日はヨハネ1:1-5から「闇に輝く光」と題して3つの点でみことばを取り次ぎます。

1. 神であるイエス 1-2

ヨハネ1章1~18節までは、人として生まれたイエス・キリストはどのようなお方なのかを永遠の視点から教えている箇所です。ヨハネの福音書は「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった」という大変印象的な文章から始まります。単純な文章なので、神学校のギリシャ語の授業では、最初に学ぶ聖書の箇所がヨハネの福音書の1:1でした。しかし、内容は非常に深いものがあります。書き出しの「初めにことばがあった」は創世記1:1の「初めに神が天と地を創造された」を思い起こさせます。創世記1:1は天地創造の初めについて教えています。その一方で、ヨハネ1:1は天地創造前の永遠の時について教えています。まだ天地が創造されていない時に、「ことば」はすでに永遠に存在していました。

さらに「ことばは神とともにあった」とあります。この場合の「神」とは父なる神のことです。ことばは父なる神と共に永遠の昔からおられました。さらに「ことばは神であった」とあります。すなわち、ことばは父なる神とは異なるが同じ神であるお方です。さらに2節で「この方は、初めに神とともにおられた」と繰り返して教えます。

では「ことば」とは一体誰のことでしょうか。それはこの後読み続けていくとわかります。14節では、ことばは「父のみもとから来られたひとり子」とあります。また18節にも、ことばは「父のふところにおられるひとり子の神」とあります。そして17節で、ことばはイエス・キリストのことだとわかります。すなわち、人として生まれたイエスは、永遠の昔から存在される子なる神であるとヨハネは教えているのです。

聖書は、神はただ一人であり3人でもあると教えています。これは人間の理性では決して理解できない神の性質であり、この神の性質を三位一体と言います。三位一体の神は父なる神、子なる神、聖霊なる神がおられ、三人であり同時にただ一人なのです。そして人としてこの世に来られたイエスは、永遠に存在する子なる神なのです。

ではなぜイエスのことをヨハネは「ことば」と表現したのでしょうか。この箇所の「ことば」のギリシャ語はロゴスです。当時のギリシャ哲学では、ロゴスとは世界を秩序も持って支配する原理や法則を意味していました。ギリシャ哲学ではロゴスは原理や法則であり、人格的な存在ではありません。それに対してヨハネは、世界を造りその後も秩序をもって支配する人格的な神がおられる。それが聖書が教える本当のロゴスであり、それが子なる神が人となられたイエスであると教えたのです。

「1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。2 この方は、初めに神とともにおられた。」この短いみことばに、人として生まれたイエスはだれかが永遠の視点から解き明かされています。イエスは永遠の昔から父なる神と共におられる子なる神です。その神が私たちを救うためにへりくだり、貧しい姿で人となったこの世に生まれてくださいました。神が人となられたことを受肉と言います。肉を受けると書きます。永遠に存在される子なる神が、聖霊なる神によっておとめマリアに宿り、肉体を受け、人となってこの世に生まれてくださいました。この奇跡を覚えて祝うのがクリスマスです。

2. 創造者イエス 3

3節は、人としてこの世に生まれたイエスは、天地を造られた創造者であることを教えています。「3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。」創世記1:1には「初めに神が天と地を創造された」とあります。この場合の神とは父なる神のことです。創世記は子なる神については触れていません。聖霊なる神については、創世記1:2に「神の霊がその水の面を動いていた」とあり、天地創造の時、聖霊は父なる神と共におられたことがわかります。けれどもヨハネは、子なる神が天地創造のみわぎに、父なる神、聖霊なる神と共に主体的に関わっておられたことを教えています。

子なる神による天地創造については、新約聖書の他の箇所にも教えられています。コロサイ1:16-17にはこうあります。「なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。」またヘブル1:2にも「神は御子を万物の相続者として定め、御子によって世界を造られました」とあります。このように、人として世に来られたイエスは、万物の創造者なのです。私たちも、母の胎の中で神によっていのちを与えられて造られ、時至ってこの世に生まれました。私たち一人ひとりの創造者も子なる神イエス・キリストなのです。

その創造者である子なる神が、マリアの胎の中で肉体を受け、被造物である人間となってこの世に生まれてくださいました。それは何というへりくだりでしょうか。「3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方に

よらずにできたものは一つもなかった。」私たちはこの自然界のすばらしさを味わいながら、イエスの創造のみわざを覚え、被造物に表されている神の栄光をほめたたえます。同時に、イエスのへりくだりを覚えて、主の御名を賛美します。そしてクリスマスには、天地の造り主であるイエスがへりくだって人となられたことを覚えて、キリストを礼拝します。

3. いのちと光のイエス 4-5

ヨハネの福音書には鍵となる言葉がいくつかあります。その一つが「ことば」であり、さらに4-5に出てくる「いのち」と「光」もそうです。「4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。」イエスは天地の創造者として、被造物にいのちを与えたいのちの源です。このいのちはまず生物学的ないのちです。動物も植物も私たち人間も、神からいのちを受けて生きています。私たちはいのちをどこから、だれから受けて、今生きているのでしょうか。それは「この方にはいのちがあった」と言われるイエス・キリストです。イエスからいのちを受けたので、今日も生きているのです。

さらにヨハネの福音書における「いのち」とは、永遠のいのちのことです。ヨハネは 20:31 でこの福音書が書かれた目的、ひいては聖書が書かれた目的についてこう記しています。「これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。」イエスを神の子キリストと信じ、イエスの名によって得るいのちとは永遠のいのちです。

実は神が最初の人アダムとエバを造られた時、二人は肉体のいのちと共に永遠のいのちも持っていました。永遠のいのちは神との親しい交わりを永遠の持つて生きるいのちです。ところが二人が神に逆らって罪を犯した結果、永遠のいのちを失い、その結果、神との交わりを失い、霊的に死んだ者となりました。さらに肉体的にも死ぬ者となったのです。そして罪を持ったままではやがて神のさばきを受けて永遠の滅びに至るようになりました。

聖書は罪と死が支配する世界を闇と呼びます。人間は神から離れた結果、罪と死が支配する闇の中を歩む者になりました。その闇の中を歩む私たちを救うために、イエスは救い主となってこの世に来てくださいました。そして、私たちの罪を赦すために、十字架で私たちの身代わりとなり神のさばきを受けて死なれました。さらに、三日目に死からよみがえり、死に打ち勝ってくださいました。イエスをご自分の死と復活によって、罪と死が支配する闇に打ち勝たれたのです。「このいのちは人の光であった」とあります。イエスがくださる永遠のいのちは、私たちを支配する罪と死の闇に打ち勝つ人の光となったのです。

「5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」十字架で死に、三日目によみがえり、今も生きておられるイエスは、罪と死の闇の中に輝く光です。イエスがくださる罪の赦しと永遠のいのちの救いは闇に打ち勝つ光です。イエスは「わたしは世の光です」と言われました。イエスを救い主と信じる者は、イエスの光の中に入れられます。その意味は、イエスのくださる罪の赦しと永遠のいのちをいただくことです。その時、私たちは闇から解放されます。そしてイエスの光に照らされて人生を歩むようになります。さらに「あなたがたは世の光です」とイエスが言われたように、イエスの光を反射させて、私たちも闇の中に輝く光となることができます。

先月、私の信仰の恩師の馬場靖先生が天に召され、葬儀の司式をさせていただきました。その時馬場先生の愛唱聖句のイザヤ書 60 章 19-22 節から説教しました。イザヤ 60:19 にはこうあります。「太陽はもはや、あなたの昼の光とはならず、月の明かりもあなたを照らさない。主があなたの永遠の光となり、あなたの神があなたの輝きとなる。」馬場先生は高校1年生の時に結核性眼底出血のために失明しました。それまで当たり前のように見えていたのに、突然何も見えなくなり、大きなショックを受け、一時は死ぬことも考えました。けれども、死ではなく生きることを選びました。そして生きることを選んだからには、生きる目的が必要だと思い、以前行ったことのある教会に行くようになり、そこでイエスを救い主と信じ、クリスチャンとしての一步を踏み出されたのです。そして、主のために生きていきたいと願い、牧師となって多くの人を主に導き、幾つもの教会を牧会されました。

目が見えない馬場先生にとっては、太陽は昼の光とはならず、月の明かりも照らさなくなりました。けれども、「主があなたの永遠の光となり、あなたの神があなたの輝きとなる」との約束をいただき、主の光に照らされて光の中を歩まれました。その主の光とは罪と死に打ち勝つ闇の中に輝くイエス・キリストの光でした。罪を赦され永遠のいのちをいただいた喜びは、生涯変わることなく、この喜びを人々に伝えたいと願い、イエスの光を反射させて、自ら世の光として輝く人生を歩まれました。

私たちは太陽の光も月の明かりも見ることができますが、霊的には闇の中を歩んでいた者です。しかし、イエスを信じた時、イエスの死と復活による罪の赦しと永遠のいのちをいただき、闇に打ち勝つイエスの光に照らされて歩む者とされました。このイエスの光を反射させて、私たちも世の光として闇に輝く光となりましょう。そして罪人に永遠のいのちを与える人の光であるイエスの恵みを証しする者となりましょう。そして来週のクリスマスには闇の中に輝く光であるイエスの誕生をともに喜び祝いましょう。